

TG-PRESS

SEPTEMBER 2019

社会とつながり、経験値を上げる！

都心のTOGAKUの周りには、最先端の情報があふれています。
在学中に社会とつながりを持つことは、将来的にもプラスになることばかり。
日本の「今」を体感できる授業を通じて、自分をもっと高めよう！



TOPICS ▶ P.6 留学で世界へ飛び出そう！

TOPICS ▶ P.7 ICP 学部留学&長期留学体験談

連載 ▶ P.12 今こそ、「東京」で「東京」を学ぶ。

都心の大学だからこそ、旬な学びや経験を。

企業や地域
海外大学との
コラボも！

社会の「今」を 肌で感じて成長する！

日本社会の中心地であり、常に新しい情報がアップデートされ続ける東京。
そんな東京のど真ん中に位置するTOGAKUには、
地の利を活かした学びの機会があふれています。
有名企業とコラボレートして最先端のマーケティングにふれるなど
学外に広がる社会とも関わりながら、学生たちは大きく成長しています。



「たまプラーザ テラス」を視察する学生たち

東急モルズデベロップメントとコラボ！ ショッピングセンターの活性化プランを学生が提案

現代経営学部／マーケティングとメディア研究ゼミ

現代経営学部の「マーケティングとメディア研究ゼミ」(八塩圭子准教授)では、企業とのコラボレーションでマーケティングの実務を疑似体験する産学連携プロジェクトを3年前から実施。今年は(株)東急モルズデベロップメントと連携し、学生発のショッピングセンター活性化策を同社に提案する目的で実施しています。

授業ではまず、同社が運営する「二子玉川ライズ・ショッピングセンター」、「武蔵小杉東急スクエア」、「たまプラーザ

テラス」、「港北TOKYU S.C.」を視察。教材となるこうした商業施設が身近にあるのも、都心のTOGAKUならではの。実際に現場を視察することで、現状の課題に即した活性化案を練ることができます。

学生たちは各ショッピングセンターの担当班に分かれ、課題を分析・整理したうえで活性化プランを立案。現場で働く若手社員とのディスカッションや中間発表を経て、11月に最終プレゼンテーションを行う予定です。



担当社員の方に解説いただきつつ施設内を見学



若手社員の方々と企画内容をディスカッション

二子玉川ライズ・ショッピングセンター班

視察を踏まえ、改めて既存ターゲットに着目

同施設は、敷地内に映画館やホテルなども備える駅直結のショッピングセンター。高所得ファミリー層をメインターゲットとするが、集客率を上げるためには「敷居の高さ」が課題でもある。視察を通じ、担当班は既存ターゲットである高所得ファミリー層に着目し、さらに呼び込むためのイベントを企画。



左：2日に分けて4つの施設を見学 上：社員からの指摘を真剣な顔で聞く学生たち

中間発表までの流れ

課題設定

メインターゲットである高所得ファミリー層を集客するには、キッズスペースを拡大したり、使い勝手を高めるべきでは？

提案内容を決める

改装はタイミング的に難しいので、既存の「原っぱ広場」を活用。トレンドに敏感なファミリーに向けた野外映画上映会を開催しては？

実現可能性を検証

野外映画上映会を実施した実績のある他社に取材し、効果を検証。また、映画上映にかかるコストもリサーチ中

企業側からのフィードバック

イベントを実施するなら、時期や集客予想などを精査する必要がある。また、元々の課題だった「敷居の高さ」への回答がなかった。

複数の施設を視察し、比較することで気付けたことも多かった。
吉田悠人さん(3年)

たまプラーザ テラス班

あえて集客率の低い世代に訴える企画を考案

周辺に暮らすファミリー層がメインターゲットの駅直結ショッピングセンター。実際の利用者はゆとりある世帯が多く、視察した学生からは「ファミリー層がターゲットの地元商業施設とは価格帯も客層も違う」という気付きも。担当班は、現状の集客率が低い20代に着目し、呼び込むための企画を考案。



左：先方の社内で行われた中間発表 上：施設をご案内いただいた社員の方々と

中間発表までの流れ

課題設定

現状、20代の集客率が低い。あえてこの年齢層をターゲットにしたマーケティングを行うことで、集客を底上げできるのでは？

提案内容を決める

近隣大学のミスコンとコラボしてコーディネート情報を発信するなど、Instagramを活用して20代に訴えてみては？

実現可能性を検証

学内アンケートを実施。ショッピングセンターの公式Instagramに求める情報をリサーチし、ファッション関連の発信を提案。

企業側からのフィードバック

既存ターゲットではない世代に着目したのは学生らしく良い発想。しかし、現企画で商圏外の若者まで呼び込めるのかは疑問。

社員の方々からのアドバイスを活かして企画をより良くしていきたい。
宮崎潤平さん(3年)

移動できる家・トレーラーハウスのデザインやビジネスアイデアを提案！

現代経営学部／新商品開発ゼミ

現代経営学部「新商品開発ゼミ」(安藤拓生専任講師)では、トレーラーハウスのデザイン・設計・製造・販売を手掛ける(株)カンバーランド・ジャパンとの産学連携プロジェクトを実施しています。アウトドア利用に留まらず、近年では移



動式店舗や災害時の仮設住宅などにも活用され、注目を集めているトレーラーハウス。学生たちは、トレーラーハウスを実際に見学・体験しながら新たな活用の可能性を探り、12月に企業に対する最終プレゼンテーションを行う予定です。



ゼミ生が長野県の本社を訪れ、展示場や工場を見学



文京区の創業・就労支援担当主査による授業

NGOや行政の専門家に学びつつ「起業」について考える

現代経営学部／アントレプレナーシップゼミ

現代経営学部「アントレプレナーシップゼミ」(石黒順子専任講師)では、現代の働き方として注目される「起業」をテーマに研究。文京区の創業・就労支援担当者や、社会起業家を支援するNGO法人の職員などをゲスト講師に招き、起業に

ついて多面的に学んでいます。

また、研究の一環として、実践型のインターンシッププログラム「地域ベンチャー留学」の説明会にも参加。この説明会を機に、「地域ベンチャー留学」への参加を検討する学生も現れました。



車いす学生とボッチャを楽しめたことは、自分たちにも子どもたちにも良い経験になったと思う。

巻島崇久さん(4年)



上：各国の国旗に合わせて英語やドイツ語、中国語などの挨拶にも挑戦 下左：学童クラブの小学生8名が参加 下右：「TOGAKUパラスポーツ」の部員がボッチャのルール説明や指導を担当

地元小学生向けに「英語でボッチャ体験」を開催 学童保育とコラボし、楽しく英語に親しむ機会を創出！

英語コミュニケーション学科／児童英語教育ゼミ

英語コミュニケーション学科「児童英語教育ゼミ」(坂本ひとみ教授)では、地元の民間学童保育と連携し、小学生を対象とした「グローバル英語体験」を今春から定期開催。学生たちにとっては、子どもへの英語教育を実践的に学び、今後の児童英語教育が目指すべき方向を考える機会になっています。

そんな「グローバル英語体験」の一環として、夏休みに実施された「英語でボッチャ体験」。学童クラブの小学生を本学に招き、パラリンピック公式種目のボッチャを英語で体験してもらうというイベントです。当日は坂本ゼミ生に加え、「TOGAKUパラスポーツ」の部員も

指導役として参加。ボッチャを楽しんだほか、本学史料室が所蔵する1964年大会の聖火用トーチを手に取ったり、オリンピック・パラリンピックにまつわる英語キーワードの学習も。東京2020大会が広報メッセージとして掲げる「Unity in Diversity」を皆で体感しました。



文京区がホストタウンとなるドイツ選手へのメッセージ作成も

TOPICS

ニーズが高まる学童保育の場で 英語の楽しさを伝える意義とは

全国学童保育連絡協議会によると、学童保育の入所児童は2009年以降右肩上がりで増加。一方で、小学校6年生の約3割が英語に苦手意識を持っているという調査結果も。そんな中、「“英語嫌い”の早期化を防ぐ」ためにも、坂本ゼミでは学校外で英語に親しみ、楽しく触れる機会として地元学童保育での活動に取り組んでいます。



現代の小学生を取り巻く環境についても学ぶ機会に

韓国の大学と合同で研究成果発表会を実施 国境を越えた意見交換も

グローバル・コミュニケーション学部

グローバル・コミュニケーション学部は、4年前から韓国の安養大と交流を深めてきました。今年は同国の全北大も加わり、3大学50名超が本学に集結。合同で研究成果発表会を行い、各大学の学生が「観光政策」をテーマにプレゼンを実施しました。学生たちは国境を超えて共感したり、未知の情報に驚いたりしつつ、活発に意見交換を行いました。



韓国の学生と一緒に上野・浅草などの東京観光も

韓国学生が日本の食や観光をどう捉えているか知れて勉強になった。
尾藤七海さん(3年)



学部の1～4年生まで幅広く参加。韓国からは23名の学生が来学

TOPICS

「観光政策」を切り口とした各大学の研究発表内容

東洋学園大学(泰松ゼミ)

テーマは「オリンピックが都市に与える効果について考える～1964年と2020年の比較を通して～」。多角的な切り口から1964年大会と2020年大会を比較・分析し、発表

安養大

テーマは「北朝鮮の観光政策」。北朝鮮の大学で観光学が盛んなことや、外国人観光客向け観光特区の存在、北朝鮮に対する韓国の人々の姿勢などを調査・研究し、発表

全北大

テーマは「Youth mall」。伝統的なマーケットを若者向けに活性化する取り組みの現状と課題、行政の政策について分析し、発表

地域のために働く人々の 生きた声から地域社会の課題を学ぶ

人間科学部

人間科学部の2年次科目「地域で働く(理論)」(宮園久栄教授)では、毎回さまざまなゲスト講師を招き、地域社会に関する学びを深めています。ゲストは市役所職員から保護観察官、法務教官まで多彩な顔ぶれ。整体サロンなどを手掛ける企業に就職し、地域の人々を支えるセラピストとして活躍している本学卒業生も登壇しました。学生たちは、ゲスト講師の生きた体験を通じて地域で働く意義を学び、同時に地域で働く人々が抱える課題についても研究しています。

秋学期からは「地域で働く(実習)」として、地域でのインターンシップやボランティアを体験する科目を開講予定です。

“地域”をキーワードに、さまざまな分野のゲストが登場!



(社福) 佑啓会ふる里学舎本郷／堀金兼太郎氏



社会福祉士／井上倫子氏



(株)ファクトリージャングル／鈴木佑太氏(卒業生)



本郷消防署員・本郷消防団副団長ら

留学で世界へ飛び出そう!

今年も多くの学生が、夏休みを利用した短期留学プログラムに挑戦!
 また、秋学期からは6名が半年～1年間の長期留学に出発します。
 さらにICPでは、過去最多となる11名もの留学が決まっています。

短期留学プログラム



初開催となった韓国短期語学留学には10名が参加

夏休み期間に短期語学留学や海外インターンシップに挑戦!

今夏も多彩な短期留学プログラムが開催され、多くの学生が挑戦。イギリス・グロスターシャー大学への短期語学留学(16日間)には9名が、オーストラリア・ボンド大学への短期語学留学(17日間)には4名が参加し、「英語オンリーの環境で積極的に発言できてよかった(渡英学生)」、「何事も初めてで不安だったが、ホストファミリーが優しくて安心できた(渡豪学生)」などの感想が聞かれました。

さらに、今年度より正式プログラムに加わった韓国への短期語学留学には10名が参加し、16日間に渡って聖公会大学校でハングル語や現地文化を学びました。また、カンボジアでのインターンシップには4名が参加。現地の日系旅行会社での就業体験に加え、孤児院や貧困支援の手工芸工房なども見学しました。



カンボジアの手工芸工房で働く方との交流も

長期留学プログラム

単位認定の留学制度を利用して6名の学生が長期留学へ

留学費用の一部を本学が補助するほか、留学先で修得した科目の内容や時間数に応じた単位認定を行う「協定校留学」及び「認定留学」制度。この制度を利用して、秋学期から6名の学生が半年～1年間の長期留学に出発します。



留学先はアメリカ、カナダ、イギリス、中国など多彩

国際キャリアプログラム(ICP)

ICP史上最多の留学者数! 5期生11名が秋学期から留学

国際キャリアプログラム(ICP) 5期生は、11名が秋学期からアメリカとオーストラリアに留学予定。今回はICP史上最多の留学者数となります。

7月には留学結団式が行われ、学生一人ひとりに旦祐介学長から留学許可証



5期生の留学結団式の様子

7月には認定式が行われ、「これまで2回の短期留学に参加。今度は長期留学となるので、さらに成長して帰ってきたい」(江口さん)、「中国長期留学は現代経営学部の学生では初なので、後輩の手本となれるよう努力したい」(中島さん)などの意気込みが聞かれました。

2019年度秋学期からの長期留学先

協定校留学

- 浙江旅游職業学院(中国/半年間)
グローバル・コミュニケーション学科3年 江口 佳凛
現代経営学科3年 中島 日菜子
- カルガリー大学付属語学学校(カナダ/1年間)
グローバル・コミュニケーション学科2年 福躍 勇介

認定留学

- カンタベリークライストチャーチ大学付属語学学校(イギリス/半年間)
グローバル・コミュニケーション学科3年 武士 翔
- カリフォルニア大学アーバイン校付属語学学校(アメリカ/半年間)
英語コミュニケーション学科3年 大平 桃花
- 慶熙大学校(韓国/半年間)
グローバル・コミュニケーション学科3年 毛利 美晴

が、愛知太郎理事長から授業料支援の目録が手渡されました。その後、学生たちが入学から今までの学びを振り返り、一人ずつ英語でスピーチ。これまでの自身の成長ぶりや、仲間・教員・家族への感謝、留学に向けての決意、将来のビジョンなどを自らの言葉で語りました。

国際キャリアプログラム(ICP) 5期生留学先

アメリカ

- ノースアラバマ大学
グローバル・コミュニケーション学科2年 佐々木 颯人、下津 佳奈、平田 大稀
英語コミュニケーション学科2年 小山 瞳、城本 知明、早田 純佳、吉田 清華
- テネシー工科大学
英語コミュニケーション学科2年 相川 美咲
- カリフォルニア州立大学フラトン校
グローバル・コミュニケーション学科2年 菅 統子
- カリフォルニア州立大学ドミンゲスヒルズ校
グローバル・コミュニケーション学科2年 戸室 風雅

オーストラリア

- オーストラリア・カトリック大学
英語コミュニケーション学科2年 塚田 友紀乃

／ 経験者に留学の本音をインタビュー！ ／

ICP学部留学&長期留学体験談

ICPの学部留学や長期留学プログラムを経験した先輩に、留学の魅力をリサーチ。
半年～1年間にわたって海外に身を置き、現地の人とふれあいながら学ぶからこそ
語学力だけでなくさまざまな面で成長できるようです。

国際キャリアプログラム (ICP)

「自分と向き合い、人間的に 成長するきっかけにもなった」

将来はフライトアテンダントを目指し、
留学先ではホスピタリティやコミュニケーションを中心に専攻したという千田さん。
授業は週4回あり、それ以外にも毎日3時

間くらい予習・復習をしていたそう。「予習・復習をすることで授業の理解度が高まり、授業をより楽しめた」と語ります。

授業のない週末は、友達とご飯を食べたり、遊びに行ったり。「ネイティブの友達には、勉強のことからアメリカの生活習慣まで何でも相談でき、親身に話を聞いてくれて、いろいろな面で助けられた」と



ICP学部留学生／千田美雪さん

グローバル・コミュニケーション学科3年。ICP4期生として、2018年秋季より1年間、ノースアラバマ大学に留学

振り返ります。

「留学は、自分と向き合うきっかけにもなりました。他人の意見を取り入れながら自分の意見を表現できるようになったり、自分が決めたことを最後までやり抜く精神力、行動力が高まり、人間的に成長できたと思います」

長期留学

「留学後3～4ヶ月で成長を実感。 長期だからこそ語学力が身についた」

留学先では授業に加え、週3回開催される任意参加の学習クラスにも出席し、英語力向上に務めた千田さん。その取り組みは現地大学にも評価され、留学生約200名の中から“The Student Achievement Award 2019”の最終候補に選ばれ、表彰されたほど。「現地では海外の留学生と積極的に英語で話し、3～4ヶ月後に英語力の向上を実感。言語を習得するなら長期留学がおすすめです!」

長期留学生／千田愛奈さん

英語コミュニケーション学科2年。協定校留学制度を利用し、2019年春季より半年間オーストラリアのニューカッスル大学付属英語学校に留学



「勤勉な中国人学生に刺激を受け 自分もがんばろうと思えた」

中国へ1年間長期留学した森山さん。前期は初級クラスだったものの、勉強に励んで高い成績を収め、後期には高級クラスへステップアップ。現地大学の「留学生奨学金」を受けるほどに成長しました。「学習・生活面ともにまじめな現地学生に刺激を受け、午前中は授業、午後は予習・復習とHSK(中国語検定)の勉強をしていました。その結果、中国語で自由に日常会話ができるくらいになり、自信ができました」

長期留学生／森山真央さん

英語コミュニケーション学科3年。認定留学制度を利用し、2018年秋季より1年間、中国の浙江旅游職業学院に留学



TOGAKU NEWS

学生たちの活躍や、学校からのお知らせなど
キャンパスライフにまつわるニュースをお届け！

SHSU in TOGAKU 2019

SHSUの学生がサマースクールで来学! 「秋葉原ツアー」などで本学学生と交流

6/3 (月)～21 (金)に米国サム・ヒューストン州立大学 (以下 SHSU) がサマースクール“SHSU in TOGAKU 2019”を実施し、本学の学生と交流しました。電気街を散策する「秋葉原ツアー」や1泊2日の栃木研修旅行、SHSUの学生をゲストに迎えた特別授業などが開催され、両校の学生にとって語学や多文化理解についての学びを深める好機となりました。



スペシャルイベント

チェコ共和国の音楽や食を学内で体験! 大盛況のチェコ・デー

英語教育開発センター (EEDC) 主催のスペシャルイベント“CZECH DAY” (チェコ・デー) が6/27 (木) 昼休みに開催されました。当日はチェコ国歌や民謡の披露、名物料理「フレイビーチェック」の試食、伝統的なカードゲームの体験なども行われ、チェコの文化を肌で感じながら楽しみました。



民族衣装の
試着も♪



学長特別賞／学部長賞

TOEIC試験で満点獲得の快挙! 4年生に学長特別賞を授与

第237回TOEIC試験にて990点 (満点) を獲得した保住和さんに学長特別賞を授与。保住さんは「今後は英検1級を目指したい」と語っています。また、人間科学部ではメンタルヘルス・マネジメント検定II種に合格した長島末佳さんに学部長優秀賞を、本学初・初級障がい者スポーツ指導員資格を取得した木村駿汰さんに同奨励賞を授与しました。

学長特別賞

TOEIC試験 990点 (満点) 獲得
※2019/1/13 (日) 実施試験 (第237回) において
英語コミュニケーション学科4年 保住和

学部長優秀賞

メンタルヘルス・マネジメント検定II種合格
人間科学部4年 長島末佳

学部長奨励賞

初級障がい者スポーツ指導員資格取得
人間科学部4年 木村駿汰



学園祭

10月19日 (土)、20日 (日) に開催決定! 第27回東洋学園大学フェニックス祭 — 郷郷祭り —

伝統を新たな時代につなぐ! 令和初の学園祭は楽しい企画が盛りだくさん

毎年恒例の「フェニックス祭—郷郷祭り—」を10/19 (土)・20 (日) に開催します。今年は「～伝統よ 永遠に～ 令和に輝け未来につなげ」をテーマに、昨年以上に参加学生団体を増やして開催。流山時代から続く伝統の『出店対抗企画』や『ちびっこ企画』、『ミスター・ミスコンテスト』のほか、脱出ゲームやバラスポーツ体験、『自彊不息 フォトコンテスト』の表彰式なども行われるほか、10/19 (土) にはオープンキャンパスも同日開催されます。

「今年の注目はステージ企画。昨年よりも出演団体が増え、さらに躍動感あるライブが楽しめるようにステージの広さや照明設備も充実させます。お笑い芸人やバンドアイドルなど芸能人ゲストも出演予定。ぜひご来場ください!」

学園祭運営局 局長
目黒 亮太 (3年)



トーガ君!



ヒューマンアカデミー日本語学校で 学生3名が日本語教育実習に挑戦

8月、ヒューマンアカデミー日本語学校(東京校)にて、グローバル・コミュニケーション学部「日本語教員養成課程」を履修する3年生3名が5日間の日本語教育実習を行いました。学生たちは授業見学や授業参加を通じて同校の推進する学習者主体の授業について学びました。さらに、教壇実習では授業の一部を担当。日本語学校で学ぶ学生の反応を直接感じ、今後の課題を見出すことのできた貴重な機会となりました。



東京都の教育に求められる教師像とは？ 教職課程履修者向けの特別講義を開催

英語コミュニケーション学科で教職課程を履修する学生を対象とした特別講義を実施。講師に東京都教育庁指導部企画課統括指導主事の堀内明氏を迎え、「東京都の教育に求められる教師像について」というテーマでお話しいただきました。参加した学生たちは、授業中の生徒の行動や学級運営、生徒や保護者の悩み・要望への対応などについて真剣に考え、活発にディスカッションを行いました。



地元商店街の納涼祭にボランティア参加 地域の人々や子どもたちと交流

7/14(日)、本郷キャンパスの地元にある本郷大横丁通り商店街で商店会主催の納涼祭が行われ、人間科学部「人間と社会ゼミ」(宮園久栄教授)がボランティア参加。子ども向けのアクティビティの企画・運営をはじめ、交通整理やごみステーションの管理などを担当しました。学生が考案した宝すくいや商店街ラリー、キャンディーレイ作りにはたくさん子どもたちが集まり、交流を楽しみました。

地域の
子どもたちと
交流!



三菱電機の最先端テクノロジーを体感! 畔上ゼミがMEToA Ginzaで学外研修



現代経営学部「地域経済・地域金融ゼミ」(畔上秀人教授)が三菱電機株式会社のイベントスクエアMEToA Ginza[メトアギンザ]を訪問。開催中のイベント「Energy-Sharing City」を体験し、同社の企業活動や都市部におけるエネルギーシェアリングの未来について学びました。参加したゼミ生からは、「エネルギーシェアリングの方法は難しいけれど、不可能な計画ではないと思った」などの感想が聞かれました。

学外から面接官を招き、就活を疑似体験 面接やグループディスカッションの実践も



3年次のキャリア教育科目「キャリアデザイン」(必修)の特別授業として、学外から面接官を招き、実際の就職活動を模した環境で面接やグループワークを疑似体験する「模擬就活」を全学部で実施。マナー講座のほか、少人数グループに分かれて面接とグループワークを疑似体験する実践練習も行われました。参加学生からは「採用担当者の視点を知ることができて良かった」などの感想が聞かれました。

ICPの1・2年生が「JICA地球ひろば」を訪問 館内展示見学とワークショップに参加

国際キャリアプログラム(ICP)の1・2年生が、JICA(日本国際協力機構)の「JICA地球ひろば」で学外研修を実施しました。現地では、海洋汚染問題を考えるワークショップに参加したり、アフリ

カの小学校の教室を再現したセットで教材を手に取ってみたりと、国際的な諸問題を肌で実感。人間の安全保障、持続可能な開発目標SDGs、世界の貧困や水問題などについて学びを深めました。



現代経営研究会

著名な講師陣から生きた経営ノウハウを学ぶ 「現代経営研究会」を今年も開催

現代経営学部と大学院現代経営研究科が共催する「現代経営研究会」。第12期となる2019年度は、「新しい価値を創る経営 ～地域・スポーツの視座から～」をテーマに、さまざまな業界・企業の経営者をゲスト講師に迎え、全6回の講演を行います。東京・本郷キャンパス1号館2Fフェニックスホールにて原則18:00～19:30に開催。聴講無料、予約不要で一般の方も参加できます。

	日程	講演者	講演テーマ
第1回	10月2日(水)	リーフラス株式会社 代表取締役 伊藤清隆氏	スポーツによる社会貢献ビジネス
第2回	10月23日(水)	株式会社ジャパン・ベースボール・マーケティング 代表取締役 村山哲二氏	プロスポーツで地域が元気になる
第3回	10月30日(水)	オイシックス・ラ・大地株式会社 代表取締役社長 高島宏平氏	食べる人・つくる人 つながる私たち
第4回	11月13日(水)	アキレス株式会社 代表取締役社長 伊藤守氏	走る喜びを支えるスポーツシューズの今
第5回	11月20日(水)	株式会社りそなホールディングス 株式会社りそな銀行 代表取締役社長 東和浩氏	リテールNo.1を目指して
第6回	12月4日(水)	ダイヤ精機株式会社 代表取締役 諏訪貴子氏	2代目「町工場の娘」の10年戦争



学食イベント

ラーメンフェアやワンコインステーキも！ 東学食堂で在学生向けイベントが続々

食を通じて学生生活を応援する1号館5Fの東学食堂。5月のラーメンフェアでは、台湾まぜそばや黒坦々麺などが登場し、瞬時に売り切れに。7月には昨年末に好評を博した「定期試験応援メニュー」の第2弾が開催され、500円ステーキが再登場。在学生からの評判も上々です。

名古屋名物
台湾まぜそば



食生活応援プロジェクト

食生活を見直すきっかけに！ 朝食・昼食の無料提供プロジェクトを実施



学生が食生活を見直し、改善する機会に寄与することを目的として、現代経営学部の教員が中心となって企画・実施している「学生の食生活応援プロジェクト」。3年目を迎える今年は5月と9月に実施し、恒例の昼食に加え、朝食も無料提供。九州のローカルエアライン『ソラシドエア』の人気メニュー「アゴユズスープ」などが配布されました。

公開講座（リベラルアーツ）

学問領域にとらわれない 幅広い教養を一流の講師に学ぶ

長年にわたる本学の「リベラルアーツ教育」の伝統を受け継ぎ、2019年度より都心の本郷キャンパスで開講されることになった「公開講座（リベラルアーツ）」。幅広い教養を一流講師や文化人に学ぶ機会として、今年度は全4回開講。盛況のうちに終了しました。今後も一般の方々を対象とした公開講座や生涯学習講座などを開講予定です。



サークル

ダンス、音楽、eスポーツなどの 文化系公認団体もアクティブに活動中！

ダンスクラブ「EXTREME☆STEPPERS」は、春と夏にライブハウスイベントを開催し、大勢の観客を前にパフォーマンスを披露(写真左)。また、5月には音楽系の公認団体「Heavenly Gospel Team」、「作詞作曲同好会」、「Rhyme」が学内で合同ライブを開催しました(写真右下)。さらに「東洋学園大学esportsサークル」は、他大学を交えたゲーム大会を主催するなど学内外で活躍中です(写真右上)。



TOGAKU SPORTS

30を超えるクラブ・サークルが活動し、スポーツにも力を入れているTOGAKU。
この夏は、「TOGAKUパラスポーツ」がボッチャ競技で3位入賞を果たす活躍も！

TOGAKUパラスポーツ

東京都障害者スポーツ大会のボッチャ競技で3位入賞！

7/13(土)に駒沢オリンピック公園総合運動場で開催された「第20回東京都障害者スポーツ大会 ボッチャ競技」に、本学の公認学生団体「TOGAKUパラスポーツ」チームが初出場。全17チーム中、3位に入賞しました。今回出場したのは、部長の市川樹伸選手(英語コミュニケーション学科2年)、春原祐弥選手(現代経営学科2年)、橋本昂典選手(人間科学科2年)の3名。CWクラス(3人1組・1試合2エンドのトーナメント制)で戦い、3回戦で惜しくも敗れて決勝には残れなかったものの、3位決定戦で勝利して見事銅メダルを獲得しました。



写真左から春原選手、市川選手、顧問部長の澁谷智久准教授、橋本選手

女子テニス部

岐阜でインカレが開催！ 本学から2名の女子選手が出場

8月に開催された「2019年度全日本学生テニス選手権大会(インカレ)」に、女子テニス部の選手が出場。女子シングルス予選には、インカレ初出場となる山田恵璃選手(3年)が出場し、健闘したものの1回戦で敗退しました。また、女子ダブルス予選には、山田選手と主将の林桃香選手(4年)ペアが出場。予選決勝まで進んだものの惜しくも敗退し、単複ともに本戦進出ならずという結果に。インカレのレベルの高さを改めて感じた大会となりました。



写真左から山田選手、林選手

硬式野球部

春季リーグ戦は6勝4敗で3位 秋は2部優勝・1部昇格を目指す！

2019年春季リーグ戦を2部で戦った硬式野球部。最終戦(第10戦)は首都大学東京と対戦し、3-8で敗戦。今季の最終成績は6勝4敗の3位となり、前季より順位を一つ上げて終了しました。日々の練習で課題を克服し、秋季リーグでは2部優勝、そして1部昇格を目指します。



スケート部

戸室選手が関カレに出場 女子6級クラスで9位に

5/19(日)開催の「第47回関東学生フィギュアスケート選手権大会(関カレ)」に、スケート部の戸室梨々奈選手(人間科学科2年)が出場。新プログラム「くるみ割り人形」でダブルアクセルを2本とも成功させるなど健闘し、女子6級クラス9位という好結果を残しました。



個人

クリケットや剣道、ストサカも！ 多彩な競技で個人選手が活躍中

富澤望選手(4年/写真上)は、今年度クリケット男子日本代表強化選手に選ばれ、強化合宿に参加。土屋麗香選手(2年/写真中)は、杖道・剣道大会で表彰台の常連に。永井佑京選手(2年/写真下)は、ストリートサッカーの大会でベスト16入りするなど活躍しています。



今こそ、「東京」で「東京」を学ぶ。

最先端のグローバル都市・東京のど真ん中に建つTOGAKUは
旬な題材にあふれる東京を教材として学べる恵まれた環境です。
しかも、「2020東京オリンピック・パラリンピック」に向けて
街が激変しつつある今は、東京を学ぶにあたって絶好のタイミング。
この連載では毎回、「東京」をテーマにした各学部の学びをご紹介します。

東京＝旬な題材や学びのタネの宝庫！

Global Economy

Global Business

Inbound Tourism

Community Development

Infrastructure

Vol.5

現代経営学部 産学連携プロジェクト「お寺ステイ」

お寺×大学生の取り組みにメディアも注目！

現代経営学部の2年次科目「企画・プレゼンテーション技法」（本庄加代子准教授）では、「お寺ステイ」との産学連携プロジェクトを実施。「お寺ステイ」とは株式会社シェアウィングが展開する事業で、主に外国人旅行者にお寺での滞在や体験を通じて文化・伝統を知ってもらおうというもの。新しいインバウンドビジネスとしても注目されています。

学生たちはプロジェクトを通じて、港区・正傳寺の活性化プランを企画・提案。7/25（木）にはメディア向け説明会を行い、代表学生2名が30名以上の記者を前にお葬式マナー講座・棺桶ワーク、闘茶体験などの企画案をプレゼンテーションしました。また、取り組みについて日本経済新聞や毎日新聞のニュースサイト、NHK「首都圏ネットワーク」などでも紹介され、大きな注目を集めています。



上：NHK「首都圏ネットワーク」での中継シーン 右：7月2日の日本経済新聞記事

寺院活性化の産学プロジェクト
東洋学園大学（東京・文京）は学生が東京都内の寺院の活性化を提案する産学連携プロジェクトを始めた。第1弾は港区の正伝寺で、8月に住職を訪ねて企画を提案する。学生の自由な発想で新しいイベントを企画し、若者や外国人観光客を呼び込めるようにする。
授業の一環でプロジェクトに参加した現代経営学部2年生の10グループから、評価の高かった3グループを企画の説明役に選ぶ。寺院宿泊事業のシェアウィング（東京・千代田）が提案運営に協力した。
提案するのは外国人向けのイベント「OTHER A STAY SHODENJI」だ。授業内ではお茶やお寺グッズなどのアイデアが出ているという。都心の立地を生かして周辺を観光する外国人が気軽に立ち寄れるようにする。

多くのメディアで紹介！

■テレビ	
2019.8.7	NHK首都圏ネットワーク（中継）
■新聞	
2019.7.2	日本経済新聞
2019.7.12	中外日報
2019.7.31	建設工業新聞
2019.8.13・23合併号	全私学新聞
2019.9.7	産経新聞
■webメディア	
2019.7.25	Hotelbank
2019.7.26	HOTELIERホテルエ
2019.7.29	時事ドットコム
2019.7.29	毎日新聞@大学
2019.8.2	マイナビ学生の窓口
2019.8.2	exciteニュース



お寺の活性化は、大学で学んだ“価値はあるが、売れないものを売る”というマーケティング力が試される貴重な機会だった（田中陽太さん）



お寺は近寄りたがたい神聖なイメージだったが、このプロジェクトを通じて身近に感じることができた。心が洗われる感じがする（高野亜美さん）

